

とになりました。人数不足 したが、本年は嵯峨宮より れ会より案内しておりま したが、本年は嵯峨宮より したが、本年は嵯峨宮より したが、本年は嵯峨宮より したが、本年は「日」に延期し	季大祭の日程は次のよう 中月十三日(日) 七時:旗立て(氏子) 九時:草刈・清掃(役員) 十月十三日(日) 七時:旗立て(氏子) 七時:旗前(宮司・役員) 十月十五日(火) 十月十五日(火) 十月二十日(日) 七時:祭受付開始 十月二十日(日) 七時:祭りは 七時:祭り 小時:時 小時:時 七時:旗立て(氏子) 小時:時 十月十三日(月) 十月二十日(日) 七時:祭お開き	元年度のお知
	納でおずる赤台 奉	てのが

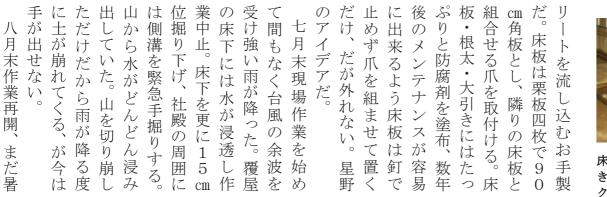
東 ま	や男性の方は是非参加し	か予想されますので氏子
○ 今和元年度の埋蔵祈願式は十二月十五日(日)に行う	字が正面から見えるよう に供物を載せて奉納台の上 に供えて下さい。きれいに に供えて下さい。きれいに に供えて下さい。きれいに に供えて下さい。きれいに	上蓋を開けると「奉納」の
● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	県、文化財調査に来る 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	

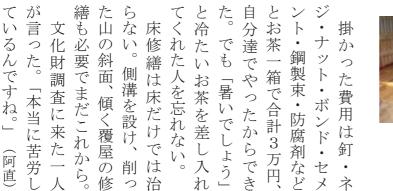
内に水が浸み込む。土の上	タンで覆った。山の一部を	いとの理由で上、	、だったが、お籠り	枚ごとに間を空けた板張	数十年前 迄覆屋側面は 一	省定することから始まる。	ホロになったのか、過去を	った。なぜこ	んじゃないの	。「自分達でやれば	寄付を募ることも	頼できる費用はなく氏子	あ	わすこと	で祝詞を	頑眼で見ながら素知らぬ	祭のたびに腐朽の床を	了した。	書いたが、このほど漸く完	ロボロなので修繕する」と	頼り第5号に「床板がボ	覆屋「床」修繕完了	
	内は水気が多い。周囲に側削って平にしただけの境	は水気が多い。周囲にって平にしただけのンで覆った。山の一部	は水気が多い。周囲にって平にしただけのいとの理由で上から	は水気が多い。周囲にって平にしただけのいとの理由で上からだったが、お籠りする	は水気が多い。周囲にって平にしただけのいとの理由で上からだったが、お籠りするごというがの	は水気が多い。周囲にって平にしただけのいとの理由で上からだったが、お籠りするでしたをけのの	は水気が多い。周囲に ででででしただけの ででででしただけの ででででした。山の一部 にしただけた板 たったが、お籠りする にしただけの のて平にしただけの のででにしただけの	は水気が多い。周囲に って平にしただけの って平にしただけの うてで覆った。山の一部 いとの理由で上から がる がる がる にしただけの	は水気が多い。周囲に にたったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする	は水気が多い。周囲に になった。山の一部 にで覆った。山の一部 にて平にしただけの のて平にしただけの のて平にしただけの した。 は水気が多い。 した に が る に た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ いとの理由で上から 始まっ たったが、お籠りする	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ になったのか、過去 でで覆った。山の一部 いとの理由で上から 始まう でで覆った。山の一部 いとの理由で上から が いとの理由で上から が いとの理由で上から が いとの理由で上から が いとの理由で上から が いとの理由で上から が いとの理由で上から が い と の た。 な で た。 り す る に た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 でで覆った。山の一部 にたったが、お籠りする になったのか、過去 でで覆った。山の一部	は水気が多い。周囲に できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 でで覆った。山の一部 いとの理由で上から始まっ たったが、お籠りする になったのか、過去 でで覆った。山の一部	は水気が多い。周囲に できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 でで覆った。山の一部 いとの理由で上から始まっ でで覆った。山の一部 いとの理由で上から始まっ たったが、お籠りする	で祝詞を上げ酒を で祝詞を上げ酒を で た。な ぜ ことに間 を 空 けた の 理 由 で 上 た の た 。 な ぜ こ ん じ や な い の た 。 な ぜ こ ん じ や な い の っ た 。 な ぜ ご と に 間 の 達 で や の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	は水気が多い。周囲に で祝詞を上げ酒を酌 でできる費用はなく氏 でできる費用はなく氏 できるでやればで った。なぜこんなに になったのか、 しになったのか、 した でたの理由で上から がま で たったが、 お籠りする に たった が り た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	は水気が多い。周囲に に たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする になったのか、過去	は水気が多い。周囲に に たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする に たったが、お籠りする た のた に た の た の た の た の た の た の た の た の	は水気が多い。周囲に に たった。なぜこんなに あった。 業者に修繕を たったが、 たったが、 たった。 なぜこんな に たったが、 たった の た の た の た の た の た の た の た の た の た	は水気が多い。周囲に に たったが、このほど漸く に たったが、このほど漸く に たったが、お 能りする たったが、 たったが、 たったが、 たったが、 たったが、 たったの が ら たったの たった の た の た の た の た の た の た の た の	は水気が多い。周囲に でそのた。山の一部 に した。 に した。 な ぜ った。 な ぜ こ と に 税 司 会 達 で や れ す こ と に 後 の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	
溝も無く雨が降ると覆屋	て平にしただけの	って平にしただけのンで覆った。山の一部	って平にしただけのンで覆った。山の一部いとの理由で上から	って平にしただけのンで覆った。山の一部いとの理由で上からだったが、お籠りする	って平にしただけのンで覆った。山の一部いとの理由で上からだったが、お籠りする	って平にしただけのンで覆った。山の一部ンで覆った。山の一部した前を空けた板	って平にしただけのって平にしただけのがとの理由で上からが、お籠りする	って平にしただけのって平にしただけのしたの理由で上からが、お籠りする	った。なぜこんなにボった。なぜこんなにボ	った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ でで覆った。山の一部 いとの理由で上から がよれいの。」腹は	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ でで覆った。山の一部	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなに になったのか、過去 った。なぜこんなに になったのか、過去 でで覆った。山の一部 いとの理由で上から 始まっ でで覆った。山の一部	できる費用はなく氏	できる費用はなく氏できる費用はなく氏できる費用はなく氏の理由で上からが、お籠りすることも難たった。から始まったのか、過去ででたが、お籠りするたったが、お籠りするの理由で上からがあった。山の一部	って平にしただけの って平にしただけの ってできる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できるでやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ いとの理由で上から 始まっ たったが、お籠りする	って平にしただけの って平にしただけの ってで もった。 なぜこんなに が と に間を 空 け た る た った の た の た の た の た の た の た の た の た の	で祝詞を上げ酒を で たった。 業者に修繕を たった。 なぜこんなに たったが、 お 行 を 募 る こ と に 間 を 奏 る こ と に 後 ろ め た 。 に な っ た 。 な ぜ こ ん じ や な い の っ た 。 な ぜ こ と に 後 ろ め た の た 、 の た の た の た の た の た の た の た の た	って平にしただけ酒を開いた。 にしたでにの方の でで で わ す こ と に 間 る こ と に 後 ろ め た 。 な ぜ こ ん じ ゃ な い の た 。 な ぜ こ と に 後 ろ め た の た 。 な ぜ こ と に 後 ろ め た の た 。 な ぜ こ と に 後 ろ め た の た 。 、 に 者 に 修 着 の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	った。なぜこんなに腐朽の床で見ながら素知ら できる費用はなくた でできる費用はなくた できる費用はなくた できる費用はなくた できる費用はなくた できる費用はなくた できる費用はなくた できるでやればで たったが、お籠りする たった。なぜこんなにが のた。なぜこんなに がら たった。 なぜこんなに が のた。 なぜこんな に で も の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	った。なぜこんなにボーンで覆った。山の一部にたが、このほど漸く	った。なぜこんなに、このほど漸く で祝詞を上げ酒を動いたが、このほど漸く でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	った。なぜこんなに、 になったのか、このほど漸く にて、なぜこんなに、 たったが、お籠りする」 たったが、お籠りする になったのか、過去 で、しただけの になったのか、 した。 なぜこんなにが にて、 ながら素知ら たったが、 たで にて、 ながら素知ら たった。 なぜこんなにが にで たのか、 した。 なぜこんなにが にで たのか、 した。 なぜこんなにが にで たのか、 した。 なぜこんなにが にで たのか、 した。 なぜこんなに にで たのか、 した。 なぜこんなに にで たのか、 した。 なぜこんなに にで たのか、 した。 なぜこんなに にで たのか、 した。 なぜこんなに にで たのか、 した。 なぜこんなに で たのか、 した。 なぜこんなに で たのか、 した。 なぜこんなに で で で で で で で で で で で で で	
も無く雨が降ると覆は水気が多い。周囲に		で覆った。山の一部	ンで覆った。山の一部いとの理由で上から	ンで覆った。山の一部いとの理由で上からだったが、お籠りする	ンで覆った。山の一部いとの理由で上からだったが、お籠りするごとに間を空けた板	ンで覆った。山の一部いとの理由で上からだったが、お籠りするでとに間を空けた板	ンで覆った。山の一部ンで覆った。山の一部でとに間を空けた板でとに間を空けた板	ンで覆った。山の一部ンで覆った。山の一部になったが、お籠りすることから始まった。たい、お籠りするでとれた板でしたが、お籠りするのでたが、お籠りするのでたが、お籠りするのでたのか、過去	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から がったが、お籠りする いとの理由で上から がるたが、お籠りする	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から がったが、お籠りする になったのか、過去 ででででした板	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ った。なぜこんなにボ でそったが、お籠りする いとの理由で上から 始まっ	。「自分達でやればで った。なぜこんなにボ った。なぜこんなに になったのか、過去 った。なぜこんなに になったのか、過去 でたったが、お籠りする いとの理由で上から がまったが、お籠りする いとの理由で上から がよったのか、過去	できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏	できる費用はなく氏できる費用はなく氏できる費用はなく氏できる費用はなく氏になったのか、過去でたったが、お籠りすることも難いとの理由で上からがたったが、お籠りするにとに間を空けた板	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から がとにてんなにボ いとの理由で上から が、お籠りする	で祝詞を上げ酒を とに で た。な ぜ ことに 間 を 空 け た の た。 な ぜ こ ん じ や な いの。」 腹 は な く 氏 の た 。 な ぜ こ ん じ や な いの。」 度 分 達 で や れ な の た 。 な ぜ こ ん じ や な いの。」 度 の 声 で や れ の た の た の た の か に の か 、 の た の た の た の か に の か 、 の の う 達 で や れ の の う に の の の 、 の の の の の の の の の の の の の の の	で祝詞を上げ酒を酌 で祝詞を上げ酒を酌 でた。なぜこんなにボ った。なぜこんなに できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる支用はなく氏 できることから始まっ になったのか、過 になったが、お籠りする にとに間を空けた板	※のたびに腐朽の床	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から始まった。山の一部 いとの理由で上から たったが、お籠りする	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から たったが、このほど漸く ことに間を空けた板 たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする たったが、お籠りする	ンで覆った。山の一部 いとの理由で上から たったが、このほど漸く ことに間を空けた板 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる費用はなく氏 できる支援屋側面は できる支援屋側面は できる支援屋側面は できる支援屋側面は できる支援国子	デレントレントン・シームの「「市」の「市」の「市」の「市」の「市」の「市」の「市」の「市」の「市」の「市	

栗板 たも 話 6 がとても買えない。 大 自分達でやればできる。 在るべき姿を描き進める。 去に拘らず将来を見据え、 始まった。 に Щ するよりはと戴けるこ が耳に入る。 \mathcal{O} 全 一てはこ の が 難関は 同家の ,使わ かと思案し れており、 床材の栗板だ 蔵を解体する \mathcal{O} 事が 床修 蔵の内壁は 万事、 てい どうし 繕 産廃 か 最 た 過 ĥ



修繕前の床 土台は腐り床が落ちている







修繕後の床



アリの 気を出

餌食となった。

床は

せない社殿は

 \square 湿

全て腐れ落ち、

本殿すら一

部

は

腐り柱が落ちていた。

 \mathbb{P} 湿 た に

タンで覆わ

れ屋外

ic シ

だけ

 \mathcal{O} 昔 い

 \mathcal{O}

建

、築方式

は

石

を

置

て 土

台

「 を 載

せ

気

が

上がり腐りやす

 $\langle v \rangle$

0

床板、根太、大引 コン き、鋼製束、 クリート台

様がやってくれた。	業も十二日で終了、最後の	ルのお茶一本で連日の作	い。水分補給用ペットボト
-----------	--------------	-------------	--------------